

山間部で大型ドローンを

検証重ね社会実装目指す

クリーク・アンド・リバー

物資輸送、計測・調査など

クリーク・アンド・リバー社（東京都港区、井川幸広社長）は20年に、ドローン開発のサイトテック（山梨県見延町、齊藤邦男社長）と共同で、



最大離陸重量140kgの重量物運搬用ドローン

山間部における最大離陸重量25kg以上の大型ドローンを活用した重量物運搬の各種検証を行った。建設や物流分野などこれまで実施した検証デー

タ、ノウハウを基に、今後も定期的な運航実績を積み重ねながら機体、オペレーションの改善、UTMをはじめとする周辺システムとの連携、環境整備などを進め、大型ドローンの社会実装を目指していく。

山間部の急斜面における林業や建設、災害救助、計測・調査などの分野では、人にかかる負担、危険が大きく、作業効率化やコスト削減を目的に大型ドローンの導入が求められている。中山間地域では新たな輸送手段としての期待も高まっている。一方で山間部では突風、霧、雨などの急な気候の変化、電波障害、安全な離発着場所の確保など、ドローンを運用する上での課題もある。

20年は▽八ヶ岳連峰で

の山小屋への物資輸送▽苗木や林業資材（滑車、ワイヤー等）の運搬▽作業場への建築資材（鉄パイプ、足場板）運搬▽緊急時に陸上輸送が困難な場面を想定した医薬品輸送▽消防隊との水難救助

共同訓練▽グリーンレーザーやガス分析機器などを搭載しての計測・調査といったプロジェクトを行った。検証にはサイトテックの最大積載重量30kg、最大離陸重量140kgの機体が使われた。今後も有人地帯での目視外飛行（レベル4）の実現を見据え、当面は山間部の無人地帯での目視外飛行（レベル3）を繰り返し、現場の声を拾い上げていく方針だ。